

受講番号 18053 学校名 城北中学校 氏名 中屋 晶子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年4組 生徒数 34 名
 科目名 2年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course2

クラスの様子・特徴

全体的に真面目で、明るく素直な生徒が多く、学習にも前向きに、意欲的に取り組める。その中で英語の学習に対して自信がなく、ほぼあきらめがちな生徒も少数が見られる。4技能の中では、特に「書くこと」「読むこと」に苦手意識が高い。

問題の確定

1時間の授業の中で、「読むこと」の指導の工夫をし、それによって、生徒たちの苦手としている「書くこと」の力を引き出したい。

予備調査

A 授業の観察

生徒のほとんどが落ち着いて授業に取り組めており、英語の授業に関しても興味、関心が高い。その中で、真面目にやってもテストの点数につながらず、あきらめがちな生徒や、自己表現が苦手で、音読の声が出ない生徒も数名いる。

B 生徒による授業評価

年度始めの授業評価によると英語の授業が好きな生徒が70%いるのに対して、英語に自信のない生徒が62%と、好きだけテストの点数につながらず「英語は苦手だ」と感じている生徒が多い。生徒の興味、関心を持続し力をつけていく指導の工夫が必要である。

C 学力データ

CRTの結果を見てみると、領域別で「聞くこと」75.8「話すこと」62.4「読むこと」61.7「書くこと」55.1となっている。定期テストの結果からも表現の問題の得点率が低く、「書く力」の向上の必要性が感じられる。

リサーチ・クエスチョン

「音読」から自己表現する力へとつなげていくための工夫

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 授業の中で単語を覚えるための指導の工夫をすれば、自主的な学習につながり、自己表現をするための単語力が向上するのではないかと

実践1

⇒ 新出単語の練習をする時に、英語－日本語を3回ずつ繰り返し声に出し、リズムよく記憶に残るようにする。(3回読み)フラッシュカードを工夫し、重要な語をわかりやすくする。小グループの活動を取り入れ、生徒が楽しみながら単語が覚えらる工夫をする。ビンゴゲームや練習プリントを使って、繰り返し定着を図る。

検証1

⇒ 授業アンケートからは「3回読み」は読みと意味をつなぐことに役立ったと感じている生徒が多かった。また重要な語を単語練習の中で提示することによって単語を覚える時の生徒の負担軽減につながり、単語学習に意欲的な生徒が増えた。一方でテストでは、簡単なつづりミスで失敗する生徒もいて、改めて正確に書くことの難しさを感じた。

仮説2

⇒ 授業の中で音読練習の時間を多くとり、いろんな音読の仕方を工夫することによって、生徒にあきさることなく音読の練習ができ、「読めない字は書けない」を打破できるのではないかと

実践2

⇒ 音読の全体練習のあと、ペアで音読の練習時間をとり、確認しあうページごとに決められた時間内にそのページが何回読めるかペアで確認しあう。(10回読み)毎時間の音読練習が同じ流れにならないようにいろんな音読方法を取り入れる。(じゃんけん読み、対話読み、グループ読み、シャドーイングなど)

検証2

⇒ ペアでの10回読みは「読みのスピードアップにつながった。」「教科書の英文の内容理解がしやすくなった。」「英文の暗記につながり、英作文の力がついた。」などおおむねよい結果があらわれた。一方で、ペアや小グループの人間関係によって取り組み方に差ができ、意欲的に取り組めなかった生徒もいた。

仮説3

⇒ 新出文型を学習したあとに、自己表現を書く機会を授業の中で必ず入れていけば、生徒たちの「書く力」の向上につながるのではないかと

実践3

⇒ 新出文型を学習したあとに、プリントに同じような文型を音読させながら決められた時間内、練習をさせる(音読筆写)。自己表現の作文を書かせるプリントを用意し、評価し、生徒に返す。定期テストに自己表現の問題を必ず出題する。

検証3

⇒ 音読筆写のプリントは各ページごとのポイント文既習後に毎回行ったが、時間内に集中して取り組み、英文を覚えるコツをつかんだと感じる生徒もいた。自己表現の作文については新出文型を使い、自分のことを表現できる英作文に挑戦した。意欲的に取り組める生徒は辞書などを用い、語彙力も高まったと思うが、単語がわからず、投げ出してしまふ生徒もいた。定期テストの表現の問題では、回を追うごとに0点の数が減少した。

研究の成果

アクションリサーチの取り組みを通して、自分の授業を振り返り、生徒を観察し、問題点に向き合うことができたことがこの研究の何よりの成果であると思う。年々家庭学習ができなくなっている生徒たちが増える中、1時間の学校の授業の中で、生徒たちにどれだけ単語を覚えさせることができるのか、教科書を読めるように指導できるのか、英語学習に自信のない生徒たちに「やればできる。」という気持ちを持ってもらえるのか、常にそんなことを考えながら授業を組み立てることができた。自己表現の力を高めるところにはいたっていないが、授業改善の一歩になった。

今後の授業改善の課題

生徒一人ひとりの興味、関心やつまづきは様々である。いろいろな取り組みをする中で、多種多様な生徒のニーズにどこまで対応できるかが大きな課題である。今回のリサーチクエスチョンでは、ゴールの設定があやふやで、仮説の検証が難しかった。「書くこと」の力を定着させるためにはかなりドリル的な練習が必要であると感じた。授業の中での地道な積み重ねが大事である。生徒の自信につながるような活動を工夫していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-822-4146 電子メール

akiko_nakaya@kt3.kochinet.ed.jp